

青年からみた家庭内の役割が精神的健康に及ぼす影響

—— 役割期待の受け止め方に着目して ——

鳴神 知華

(香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻)

問 題

森川 (2016) は、青年と親との関係を養育態度からではなく役割関係から捉え、青年が家庭内を安定状態に保つよう調整する「親的役割」と、親の言うことに従う「子役割」を見出している。また、昨今子どもが親の期待をどう受け止めているのか、という認知に着目する視点が注目されている。本研究は、青年期における家庭内役割に関する親からの期待と、子どもの受け止め方、期待に関する役割行動との関連について探究することを目的とし、これら期待と受け止め方が青年の精神的健康に及ぼす影響について検討する。

方 法

調査協力者 大学生 235名に質問紙調査を行い、214名 (男性 118名, 女性 95名) の回答を有効とした (有効回答率 91.0%)。平均年齢は 19.8 歳 ($SD = 1.27$) であった。

調査項目 (1) 家庭内の役割尺度 森川 (2016) の家庭内の役割尺度を使用した。(2) 親の期待に対する子どもの受け止め方尺度 渡部ら (2012) の親の期待に対する子どもの受け止め方尺度を使用した。(3) 日本語版 GHQ12 一般的なストレス反応の指標である日本語版 the General Health Questionnaire 12 項目 (以下 GHQ12) を使用した。

結 果

基本属性別に家庭内役割及び期待の受け止め方、GHQ12 各得点における平均値の差の検定を行った結果、性差が確認されたことから、各得点の関連や影響について男女別に検討を進めた。

まず、親的役割期待及び期待の受け止め方を説明変数、親的役割行動を従属変数とした重回帰分析を行った。その結果、男女共に親的役割期待から親的役割行動への有意な正の影響が認められた。また、同様に子役割期待および期待の受け止め方を説明変数、子役割行動を従属変数とした重回帰分析を行った。その結果、男子については、子役割期待 ($\beta = .680, p < .001$) と失望回避的受け止め ($\beta = .159, p < .05$) から子役割行動への有意な正の影響が認められた。また、女子については

子役割期待 ($\beta = .541, p < .001$) と積極的受け止め ($\beta = .270, p < .01$) から子役割行動への有意な正の影響が認められた。

次に、親的役割期待及び子役割期待、期待の受け止め方を説明変数、GHQ12 得点を従属変数とした重回帰分析を行った。その結果、男子については負担的受け止めが GHQ12 得点に有意な正の影響を及ぼしていた ($\beta = .490, p < .001$)。女子は、決定係数は有意でなく、予測精度が低いことが明らかとなった。

考 察

本研究では、親・子双方の役割期待の他に、期待の受け止め方が役割行動や GHQ12 得点に対して正の影響を及ぼすことが明らかとなった。男女別にみると、男子は、失望回避的受け止めが子役割行動に、負担的受け止めが GHQ12 得点に影響を及ぼし、女子は、積極的受け止めが子役割行動に影響を及ぼすことが示された。男子にとって、失望回避的受け止めは積極的側面と負担的側面を含む葛藤的な性質を持っており、子役割期待を肯定的に受け入れながらも負担に感じ、親を失望させたくないという思いから子役割行動をとりやすい傾向にあるのかもしれない。女子は、子役割行動の背景に、両親の子どもであることを肯定的に受け入れていることや両親との心理的距離の近さが、子役割期待を葛藤なく受け入れ、子役割行動をとりやすい傾向にあるのではないかと推測される。しかし、これらの点について確かな考察を得るためには、今後さらに詳細に検討する必要がある。

主な引用文献

森川 夏乃 (2016). 青年からみた家庭内の役割と家族機能との関連—役割期待と役割行動に着目して— カウンセリング研究, **49**, 170-179.

謝 辞

本研究の遂行にあたり、ご指導頂きました香川大学医学部臨床心理学科長谷綾子准教授、ならびに研究協力者の皆様に深謝申し上げます。